

取引先・従業員の家族に対しても分かりやすい内容に

第20回環境コミュニケーション大賞

環境活動レポート大賞（環境大臣賞）

来ハトメ工業株式会社



自社の環境活動の発展につなげられ、ハクがつくなら、という思いで応募

——環境コミュニケーション大賞へ応募をはじめたきっかけについてお聞かせください。

環境コミュニケーション大賞を知ったきっかけは、2010年に群馬県で行なわれたエコアクション21の全国交流研修大会でした。その時に事例発表を行なった事業者が「環境コミュニケーション大賞の大賞を狙っている」と発表したことに刺激をうけ、自社の環境活動の発展につなげられ、「箔」がつくなら、という思いで応募することにしました。

今では恒例の重要年間業務に織り込まれ、応募の時期がくると環境省のホームページにアクセスしたり、地域事務局に問い合わせをこちらから行うようにしています。

当初応募するにあたり社長からは、「応募するからには5年で大賞を取るように」とチャレンジを受けました。1年目は受賞できませんでしたが、2年目で奨励賞、3年目で大賞を受賞することができ、社長の期待に応えることができました。

「自分達の取組は間違っていなかった」という自信につながりました

——社内の現場の皆さまの変化についてお聞かせください。

従業員は環境活動に励んでくれていますが、「頑張って環境活動に取り組んでほしい」という言葉だけでは、なかなか現場のモチベーション向上に繋がりません。賞を受賞した一番のメリットは、現場で環境活動に携わっている従業員の励ましになっていることですね。



環境大臣から賞を受賞したことは、自分達の取組が国のトップレベルであるという証になりますから、「自分達の取組は間違っていなかった」という自信につながりました。今では、従業員に対して環境活動の意義をあらためて説明しなくても、自ずと理解を示してくれるようになっていきます。

また、社長に対する環境活動の提言への後ろ盾とすることができたため、環境活動へ資金と時間を投資していただきやすくなりました。

写真を多く掲載し、従業員のイキイキとした活動の様子を記録

—環境活動レポートの作成にあたり、日ごろの工夫や苦勞している点についてお聞かせください。

さまざまな情報を盛り込むことを意識しているため、一般的な環境活動レポートに比べてページ数が多いものとなっています。ただしデータの羅列では内容が不十分となりますので、「見せ方」について工夫しています。

工夫の一つとして、写真を多く掲載することを意識しています。取組を通して従業員がイキイキと活動している様子が分かるような、また従業員の成長や変化を見逃さないような写真となるように心がけています。結果として、従業員の家族に対しても、家族がどのような仕事をしているかを視覚的に分かりやすく説明することができるようになったことも良かった点です。



年々、環境活動レポート全体のレベルが高まっていますので、審査委員からの講評を真摯に取り入れ、他社の環境活動レポートや講評もチェックし、内容の充実を図っています。

新しいつながりができたことで、さまざまな評価やアドバイスを得られる

—受賞後、社外の反応で変わった点はございますか。

取引先に対しても、積極的に環境活動レポートを渡しています。自社の環境活動のPRにもなりますし、環境コミュニケーション大賞受賞は自社の環境配慮活動が充実していることの証明となり、活動の質の担保がされていると思っています。

2017年だけでも、エコアクション21の取組みを含めて新たに環境活動を行おうとする事業者向けのセミナーなど講演依頼が4件ありました。

審査人の方を通じて視察に来られる機会も増え、新しいつながりができたことで、さまざまな評価やアドバイスを得ることができています。

今後はSDGsなど中小企業がまだ取り組んでいないような分野に挑戦

—今後、環境コミュニケーションとしてチャレンジしてみたいことはございますか

例えばSDGsに関連した活動や取組など、中小企業がまだ取り組んでいないような分野に今後は挑戦してみたいと思っています。

—ありがとうございました

